

令和3年度

自己点検・評価報告書

令和4年3月実施
学校法人 神村学園

神村学園専修学校

目次

| | | |
|------|----------------------------|-----|
| 1 | 学校の教育目標 | P1 |
| 2 | 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 | P1 |
| 3 | 評価項目の達成及び取組状況 | |
| (1) | 教育理念、目標 | P2 |
| (2) | 学校運営 | P3 |
| (3) | 教育活動 | P4 |
| (4) | 学修成果 | P5 |
| (5) | 学生支援 | P6 |
| (6) | 教育環境 | P7 |
| (7) | 学生の受け入れ募集 | P7 |
| (8) | 財務 | P8 |
| (9) | 法令の遵守 | P8 |
| (10) | 社会貢献・地域貢献 | P9 |
| (11) | 国際交流 | P9 |
| 4 | 学校評価の具体的な目標や計画 | P10 |

令和3年度 自己点検評価表

神村学園専修学校

1 学校の教育目標

実学による人間性豊かな人柄

神村学園では学力向上と人柄教育を両立させることを教育理念としている。専修学校では「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」をより深く学び、実習においては技術・技能を磨いていなければならない。しかしながら免許や技能はあくまでも仕事上の条件であり、人間としてのモラル、基本的なマナーを根底に置き、専門職としての職務を果たせるようになることが目標である。看護師・理学療法士・作業療法士・保育士の免許が最大の目標ではなく、その資格・免許を通して社会に貢献できる人材育成を教育の目標

(日本語学科) 日本語教育並びに建学の精神である人柄教育を通し、国際社会に貢献できる資質を備えた感性豊かな人材を育成する。

責任

自分の行動や感情に対して責任を持ち、すべてに対して誠実に対応できる人材の育成に努める。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「アドミッション・ポリシー(入口)」、「カリキュラム・ポリシー(中身)」、「ディプロマ・ポリシー(出口)」についての基本的方針を策定・実践する

①国家試験全員合格 ②授業の中身の充実 ③オープンキャンパスの充実(募集活動の充実) ④環境美化に努める ⑤就職支援活動 ⑥専任教員養成講習会において看護学教育を深く学ぶ。 ⑦社会性、コミュニケーション、創造力の向上 ⑧留学生の大学進学率を上げる ⑨専門学校・大学合格、日本での就職等、学生個々の目標達成のためのカリキュラムの実施

3 評価項目の達成及び取組状況

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (1)教育理念、目標 | | 評価 |
|------------|--|----|
| 1 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) | 3 |
| 2 | 学校における職業教育の特色は理解しているか | 3 |
| 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 |
| 4 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色将来構想などが学生保護者等に周知されているか | 3 |
| 5 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |

①課題

- ・実務経験のある教員が多数存在する
- ・専門知識や技術を習得できる
- ・資格取得後、それぞれの職種として必要な知識・技術に加え、態度の習得も必要である
- ・資格取得は当然であるが、社会的役割と義務を確認させ、そのためにはどのような学びをしなければならぬか気づかせ、実践させること
- ・集団で学ぶこと(チームワーク)、一人では何もできないこと、周囲の人との関わりの大切さを知ること
- ・人柄教育を軸に、学生への教育、社会スキルの習得は必要だと思う
- ・人柄とは？良い人柄とは？魅力ある人は？など考えながら学校生活を楽しむこと
- ・即戦力を身に着けた人材の育成
- ・セラピストとしての知識や技術はもちろん、その前に社会常識を学ぶ必要がある

②今後の改善方策

- ・人柄教育、プロフェッショナルの育成
- ・教育環境、備品の整備を行う
- ・国家試験全員合格に対して、具体的な年間計画を立て、計画的に行う必要がある
- ・1・2年生の学力向上に向けて①小集団グループを編成して、ゼミ形式で教員が指導する。(継続)年間を通じた具体的計画の立案。
- ・保護者会、地区保護者会などの場面で、学校理念等を紹介する
- ・教育内容の検討、学習能力の向上を図る努力をする。
- ・自立性を強化できるようにする。

③特記事項

- ・人柄教育を念頭に、必要な内容を精査し、教育に導入していく
- ・より良い教育のためにも、学生・保護者のニーズをしっかりと把握する
- ・医療専門職としての知識、態度を再確認する。
- ・労働人口減少に対する国の安易な政策、留学生受入れから外国人労働者の受入れへの方向転換には不安要素が多い。本校はこれまで通り地道に真面目に丁寧に、留学生を受入れていくべきだと思う。

| (2) 学校運営 | | 評価 |
|----------|--|----|
| 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3 |
| 2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 3 |
| 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3 |
| 4 | 人事、給与に関する規定等は整備されているか | 3 |
| 5 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 |
| 6 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3 |
| 7 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

① 課題

- ・教育活動等の内容についても、可能な範囲で情報公開の必要もある
- ・運営を行う上で、人員と役割責任の分配、効率を考えたシステム作りが必要である
- ・個人情報保護法の厳守

② 今後の改善方策

- ・個人情報保護法など、法的な側面の共通理解をはかる。
- ・学生へ適切なタイミングでの情報開示を行う
- ・各種願や届なども、紙媒体ではなく電子化を検討してもよいのではないか

③ 特記事項

特になし

| (3)教育活動 | | 評価 |
|---------|---|----|
| 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3 |
| 2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3 |
| 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3 |
| 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3 |
| 5 | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 3 |
| 6 | 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 3 |
| 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 |
| 8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3 |
| 9 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 3 |
| 10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3 |
| 11 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか | 3 |
| 12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 3 |
| 13 | 関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 3 |
| 14 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3 |

①課題

・研修など、参加頻度をみると職員による差もあるようなので、計画的に行うべき
 ・コロナによるリモートでの授業も多かったが、タブレット導入がされていたこともあり、円滑に行えたと思う
 ・常にニーズが変化する教育界で、教員の研修は必須である
 ・授業評価の実施・評価体制。 教員数の不足感。
 ・人員不足や雑務等により本来行うべき学生への教育が不十分な状況もあり、また研修に行く時間等の確保もできない状況にあった。

②今後の改善方策

・教育指導法に関する研修参加の機会を増やしていく
 ・業務内容の見直し、効率化を図る。
 ・入学者の現状を考え、教科編成や課外活動を行う必要がある
 ・計画的に業務を進め、時間にゆとりがもてるよう努める。
 ・自己研鑽を怠らず、学生へ還元できるように意識し取り組む必要がある
 ・授業評価のシステム化、教員数の充足、能力開発研修の具体的な計画と実施

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (4)学修成果 | | 評価 |
|---------|---------------------------------------|----|
| 1 | 就職率の向上が図られているか | 3 |
| 2 | 資格取得率の向上が図られているか | 3 |
| 3 | 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

①課題

- ・入学目的が明確でない者の、早期休学、退学を考える
- ・卒業生の卒後の活動などの情報はあまり聞くことはないので、そういう機会も作るべきだと思う
- ・コロナの影響は少なからず国家試験対策に影響したものとする
- ・臨地実習の機会が、コロナの影響で少なかった

②今後の改善方策

- ・臨地とのリモート対応も検討すべきである
- ・勉強したことのない学生にどう底上げしていくか常に工夫が必要である。
- ・同窓会を活用しての把握。
- ・カリキュラムの質の向上が必要である
- ・進学指導と就職指導をどのように両立するかを明確にしていく

③特記事項

- ・行事による職員・学生の負担に配慮する(現在はコロナでむしろ中止が多いが)

| (5) 学生支援 | | 評価 |
|----------|---|----|
| 1 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 |
| 2 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 3 |
| 3 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3 |
| 4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3 |
| 5 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3 |
| 6 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 7 | 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 8 | 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 9 | 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 |

①課題

・オンラインを活用した高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育に取り組む
 ・コロナ感染予防のため学校訪問を制限されている
 ・本校の魅力がなかなか伝わっていないのではないか
 ・地域社会における援助技術の修得が不足している
 ・学生の経済を支援できないものか

②今後の改善方策

・奨学金を受けられる体制を作ってください学生のモチベーションアップを図る(制度の充実)
 ・学生募集担当の職員が県内高校を訪問し、先生方に十分説明していると思う
 ・実際に臨床でしか身につかないことも多く、改善は難しいが、意識していきたい
 ・リモート学習の充実(システムも含め)

③特記事項

卒業生への支援として、ビジネス日本語のオンライン講座を検討中

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (6) 教育環境 | | 評価 |
|----------|--|----|
| 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 |
| 2 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を設備しているか | 3 |
| 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 3 |

①課題

- ・棟内にスピーカーがなく、緊急の時の連絡が難しい
- ・棟を利用する人数に対するトイレの数が少ない印象がある
- ・備品等の整理整頓と充実
- ・学内における、火災訓練の徹底
- ・ネット環境が不十分な部分もある
- ・設備が一部老朽化し、作業療法に必要な道具類で一部古いものもある
- ・川内原発の事故発生時の対応を、しっかりと確認しておくべきである

②今後の改善方策

- ・トイレを増やしたり、整備してほしい
- ・管理・点検を計画的に行う必要がある
- ・ネット環境の改善が必要である
- ・何が必要なのか、具体的にリストアップし、稟議していく
- ・備品は丁寧に扱うことはもちろんだが、消耗品としては整備を検討していくべきだ

③特記事項

- ・自然災害を常に想定し、日ごろからの避難経路や体制を整えておくことが重要である

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (7) 学生の受け入れ募集 | | 評価 |
|---------------|-----------------------------|----|
| 1 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 3 |
| 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 3 | 学納金は妥当なものとなっているか | 3 |

①課題

- ・募集活動と教育活動の両立
- ・募集活動については、積極的に行われている
- ・定員の確保が必要である
- ・奨学金や、各種補助金についてしっかりとお知らせする
- ・職員が兼務となっている部分は、負担が大きくなっている感じもある

②今後の改善方策

- ・学科の定員割れに関しては、内容をしっかりと分析し、具体的な対策をとる必要がある
- ・18歳人口の少なさを考え、留学生や社会人を視野に入れた募集活動が必要になってきている
- ・作業療法学科の学費は低く抑えられ、その魅力を積極的にアピールできれば
- ・入学までの細かなフォローアップを考えると、募集担当者と教員は分け、両者間の連携が理想ではないかと思う

③特記事項

- ・特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (8) 財務 | | 評価 |
|--------|--------------------------|----|
| 1 | 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか | 3 |
| 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3 |
| 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 3 |
| 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 3 |

①課題

・備品や消耗品を新しく購入するための予算が学科になく、稟議を上げてから購入までの時間がかかる

②今後の改善方策

・年度はじめに、学科の予算はもらえないだろうか
 ・学校運営、学校評価に基づいて公開できるところは開示していくよう努力する
 ・情報は開示するべきと考える

③特記事項

・特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (9) 法令等の遵守 | | 評価 |
|------------|-------------------------------|----|
| 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 3 |
| 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか | 3 |
| 3 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3 |
| 4 | 自己評価結果を公開しているか | 3 |

①課題

・自己評価結果が次年度に改善されていない部分もある
 ・毎年度末に自己点検・評価を行うが、行う以上、次年度の改善へ向けて努力すべきである

②今後の改善方策

・積極的に自己評価を行っていく
 ・せっかく全教員が自己点検・評価を実施するので、改善できる点は少しずつでも改善していくよう取り組んでいく

③特記事項

・自己評価の公開をインターネットで行い、より透明性のある学校運営に努める。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (10) 社会貢献・地域貢献 | | 評価 |
|----------------|---|----|
| 1 | 学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 2 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |
| 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

①課題

- ・地域との交流が少ない
- ・コロナのため、なかなか実施できないという実情もある
- ・地域に必要とされる学校になるために、学内業務と学外業務の両立が課題である

②今後の改善方策

- ・地域の行事などに参加する
- ・コロナが収束しなければ、現実的に難しく思う
- ・いちき串木野市との連携を図りたい

③特記事項

・市と連携し、日本語サポーター養成講座を年に5回実施した。また、市内在住の技能実習生に対する日本語・日本理解講座も行った。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

| (11) 国際交流 | | 評価 |
|-----------|------------------------------------|----|
| 1 | 留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか | 3 |
| 2 | 留学生の受入・派遣、在籍管理等において適正な手続き等が取られているか | 3 |
| 3 | 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 3 |
| 4 | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 3 |

①課題

- ・コロナ感染症拡大のため、留学生の受け入れができていない
- ・入国制限緩和後の受け入れ体制を整えておくこと

②今後の改善方策

- ・リモートでの対応とその充実
- ・留学生は大変優秀なため、日常生活においては特に問題はない
- ・日本語習得のために、アルバイトなど積極的に取り組んでいる

③特記事項

特になし

4 学校評価の具体的な目標や計画

- ・自己点検・自己評価の結果を踏まえ、国家試験合格率の向上、専門職業人としての資質を向上してける努力をする
- ・職員間での認識の違いがある。教育への統一化が必要
- ・SDGsの時代、しかし、ゴミの出し方は職員もできていない部分もある。物をもっと大切に使うことで、人柄教育の理念を責任をもって果たすべき
- ・職員、学校全体で、人柄教育を理念とし、職業人の育成に力を入れていかなければならない。